

平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概要

平成20年12月
長野市教育委員会

1 趣 旨

長野市では、本市の児童・生徒にどのような学力が定着し、どのような課題があるかを把握し、「基礎学力の保障」を図るため、長野市小中学校基礎学力調査事業を推進している。

今年度、その取り組みに活かすべく、平成20年度全国学力・学習状況調査に参加し、8月末にその結果が返却されたので、児童・生徒の学力や学習習慣、生活習慣等に関わる状況について調査結果の概要を取りまとめた。本市では、調査結果をもとに教師の指導改善や学校の教育課程改善を図ることで、児童生徒への基礎学力の保障を図ることを第一と考えており、調査結果の数値は、指導した教師が自己の指導を振り返るためと、児童生徒一人一人が学習改善につなげるためのみに活用しているので、本調査の概要については、数値ではなく文章表現で公表することとした。

2 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

3 実施調査内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査・・・国語、算数・数学の2教科において実施

ア 主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

イ 主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容
- 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力にかかわる内容

② 児童生徒に対する質問紙調査

- 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）

(2) 学校に対する質問紙調査

- 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）

4 調査対象学年、調査問題、実施学校数、児童生徒数及び調査実施日

	対象学年等	調査問題	長野市の状況		実施日
			実施校／全学校	実施児童生徒数／ 対象児童生徒数	
小学校	小学校 第6学年	国語A・B、算数A・B 児童質問紙	54校／54校	3,438人／3,490人	平成20年 4月22日(火)
	学 校	学校質問紙	54校／54校		平成20年4月22日 までに実施
中学校	中学校 第3学年	国語A・B、数学A・B 生徒質問紙	23校／23校	3,135人／3,257人	平成20年 4月22日(火)
	学 校	学校質問紙	23校／23校		平成20年4月22日 までに実施

※ 実施児童生徒数は、4月22日に調査を実施した児童生徒数。実施日以降に実施した児童生徒数は含まれていない。

※ 中学校実施生徒数は、文部科学省より訂正の連絡があり、3,144人→3,135人に修正した。

5 留意事項

- (1) 教科に関する調査については、調査科目が、国語、算数・数学の2教科のみであることと、学習指導要領に示された身に付けるべき学力の全体を網羅しているわけではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の一部であるということに留意する必要がある。また、質問紙調査については、質問項目に関する児童生徒や学校の実態の傾向を示したものであり、改善に向けては個々に対応することが大事であることに留意する必要がある。
- (2) 本概要は文部科学省が提供する次の資料と関連づけて活用していただきたい。
 - 「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」
ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/08chousakekka/index.htm>
 - 「平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」
ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/08tyousa/08tyousa.htm>

6 調査結果の概要

- (1) 児童生徒の学力に関する調査結果

① 全体概要

<p>ア 実施調査問題ごとの状況 (長野市児童生徒の平均正答率を全国平均正答率と比較)</p> <p>《小学校6年生》</p> <p>○国語A 全国平均正答率を上回っている。○国語B 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>○算数A 全国平均正答率を上回っている。○算数B 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>《中学校3年生》</p> <p>○国語A 全国平均正答率を上回っている。○国語B 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>○数学A 全国平均正答率を上回っている。○数学B 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>イ 問題ごとの正答数合計の分布状況は、全国と同じ傾向である。全国に比べて正答数が少ない児童生徒の割合が低く、正答数の多い児童生徒の割合が高い。</p> <p>ウ 無解答率が高い問題は全国と同じ傾向である。平均無解答率は全国平均に比べて低い。</p> <p>エ 平成20年度調査は、19年度調査に比べて各教科の平均正答率が低くなっている。しかし、同一の問題における過去の調査の全国正答率と今年度の長野市児童生徒の正答率を比べてみると、ほぼ同じであるか、あるいは高くなっていることや、昨年度と今年度調査の標準化得点(平均正答数を100とした得点)を比べても大きな変化がないことから、長野市の児童生徒の学力が昨年より低下しているとは言えない。</p>

② 問題別の概要

長野市の児童生徒が今回出題されている問題について、どのような力が定着していてどのような力に課題があるかを把握するために、次の観点で調査問題及び学年別に概要をまとめた。

- ◇ 観点
- 印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均以上の設問のうち特徴的な設問を取り上げた。
 - △印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均以上ではあるが、特に正答率が低いと考えられる設問を取り上げ、その学習指導改善のあり方について記した。
 - 印：長野市児童生徒の各設問の正答率について、正答率が全国平均以下の設問のうち、特に課題となる設問を取り上げ、その学習指導改善のあり方について記した。

【小学校 6 年生】

学 力 の 状 況	
小学校 国語 A	<p>○漢字を正しく読んだり書いたりする力は定着している。</p> <p>○「5スピーチの組み立てをとらえる」、6発表原稿を工夫する」では、相手の意図をつかみながら聞くこと、考えたことや伝えたいことを的確に話すこと、また、そのために内容のまとめや区切り、重要な語句を意識して原稿づくりを行うことに関する知識は定着している。</p> <p>△「9段落の内容をとらえる」では、段落の内容を読み取る力に課題がある。文脈に即して内容を読むために、語句と語句、文と文、段落と段落の関係をとらえ、文章全体の構成が理解できるよう指導する必要がある。</p> <p>●「2漢字を使い分ける」では、同音異義の複数の漢字の意味を正しくとらえ、文脈に適した漢字を選択する力に課題がある。同音や同訓の漢字の意味や用法を理解するために、国語辞典や漢和辞典を国語の授業のみならず、各教科の調べ学習や日常生活の中でも積極的に利用できるよう指導する必要がある。</p>
小学校 国語 B	<p>○「1聞き方を工夫する」では、質問を計画的に準備し、適切な言葉遣いで聞く力や相手の反応に応じて適宜質問の内容を変更するなど、インタビューの仕方を理解し、インタビューの記録内容について評価する力は定着している。</p> <p>△「3情報を読み取って書く」では、情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書く力、目的に応じて必要に情報を取り出して効果的に書く力に課題がある。様々な文章や資料を基に必要な情報を収集して、自分の考えを主体的に、また効果的に書けるよう指導する必要がある。</p> <p>●「3情報を読み取って書く」では、目的に応じて資料から必要な情報を取り出して、整理して読み取る力に課題がある。いくつかの情報を関連付けて整理し、文脈に合わせて必要な情報を取り出して読み取る指導を各教科の学習の中でも積極的に行う必要がある。</p>

学 力 の 状 況	
小学校算数A	<ul style="list-style-type: none"> ○「1四則計算」では、整数や小数を含む式を計算する力、「2分数と小数の関係」では、分数と小数の関係を理解する力は定着している。 ○「5図形の面積」では、情報過多の場面で、必要とされる長さを選択し、公式を適用して平行四辺形の面積を求める力は定着している。 △「9円グラフと百分率」では、百分率の意味を理解し、基準量をもとに割合を使って必要な数量を求める力に課題がある。百分率と小数で表された割合の関係の理解を確実にし、必要な数量を求められるよう指導する必要がある。 ●「6量の大きさについての感覚」では、面積の大きさについての感覚を身に付けることに課題がある。様々な具体物の大きさを調べ、確かめる活動を積極的に取り入れた指導を行う必要がある。
小学校算数B	<ul style="list-style-type: none"> ○「1事象の観察と判断の根拠の説明」では、日常の事象を観察して、ドアの動きを図形と重ねてみる力、「2情報の選択と考え方の評価」では、棒グラフが表している数量を読み取る力、「4解決方法の解釈と適応」では、事象から規則性を見つける力は定着している。 △「2情報の選択と考え方の評価」では、示された考えが正しいかどうかを円グラフと棒グラフの数値をもとに割合の考え方をういて判断する力に課題ある。単に割合の数値を比べても意味がなく、比較量は基準量と割合によって決まるという割合の意味を理解させ、実際に比べるなど実感を伴う指導を行う必要である。 △「5資料の数学的な解釈と関連付け」では、折れ線グラフと棒グラフが表している内容を関連付けて読み取る力に課題がある。折れ線グラフと棒グラフの数量を読み取るだけでなく、それぞれのグラフの特徴を理解して、グラフの形状から読み取れることやその理由を説明する活動を取り入れ指導を行うことが必要である。

【中学校3年生】

学 力 の 状 況	
中学校国語A	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を正しく読んだり書いたりする力は定着している。 ○「1話合いをする」では、話合いを行う際に、話の構成に注意しながら的確に聞き取ることや話し合いの方向をとらえて適切に発言することなど、対話や討論についての知識は定着している。 △「3評価・批評を推敲に生かす」では、二つの文章を読み比べて、論理の展開に着目し、評価・批評する力に課題がある。論理の展開に着目し、文章構成を工夫したり、互いの文章を読み合う中で自分の表現に役立てたりする指導を行う必要がある。 ●「5随筆を読む」では、論理の展開の仕方に即して、文章の内容を読み取る力に課題である。文章を正確に理解するために指示語が指示する内容を考えたり、具体例をもとにイメージを確かなものにししたりして丁寧に読むことを指導する必要がある。また、物語や小説だけでなく科学的な内容を扱った文章をはじめとして様々な種類の文章に触れる機会を意図的、計画的に設けることが必要である。

学 力 の 状 況	
中学校 国語B	<p>○「2目的をもって文学作品を読む」では、文学作品を読み、登場人物の人間関係や心情を読み取る力は定着している。</p> <p>△「3言葉について考える」では、読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書く力に課題がある。根拠となる事柄を具体的かつ正確に取り上げながら、自分の考えを述べる機会を意図的、計画的に設けるなどして指導する必要がある。</p> <p>●「1情報を更新する」では、複数の資料を比較して読み、その違いに気づき、適切な情報を選び出して書き換える力に課題がある。様々な資料から情報を収集する方法を身につけさせるとともに、複数の情報を吟味し、必要に応じて取捨選択し、情報を自分の表現に活用できるよう指導する必要がある。</p>

学 力 の 状 況	
中学校 数学A	<p>○「1分数の減法の計算・正の数と負の数とその計算」では、分数及び正負の数と二乗を含む式を計算する力、「3方程式の解き方とその利用」では一次方程式を解く力は定着している。</p> <p>△「11反比例のグラフと点の座標」では、反比例のグラフ上の座標を正しく読むことはできるが、グラフから式を求める力に課題がある。反比例のグラフの特徴を理解し、反比例の式が求められるよう指導する必要がある。</p> <p>●「10グラフと変域」では、xの変域に対応するyの変域をグラフ上に表す力、「12一次関数の式と表」では、一次関数の式の意味を理解することと表の数値をもとに一次関数の式に表す力、「13二元一次方程式と一次関数のグラフとの関係」では、二元一次方程式と一次関数のグラフとの関係を理解する力に課題がある。一次関数の指導では、与えられた変域の範囲を示すグラフをかくだけでなく、そのグラフのとり得る値の範囲を座標軸に対応させxとyの変域を読み取らせることや、グラフと表を関連付けて一次関数の式の特徴を理解させる指導を行いたい。また、「方程式」(xは未知数)と「一次関数」(xは変数)のxには違いがあるが、「方程式の利用」の場面で、双方を関連付けた指導を行う必要がある。</p>
中学校 数学B	<p>○「1事象の数学的な解釈と判断」「2発展的に考え、予想すること」「3複数の事象の統合」では、与えられた情報をもとに、考えを文章で表現したり、式を求めたり、また条件に合うものを選んだりする力は定着している。</p> <p>△「5事象の理想化・単純化」では、事象を単純化してとらえ、文章で表現された事柄の数学的な意味を考え一次関数で表したり、一次関数を用いて問題解決の方法を数学的に説明したりする力に課題がある。授業で実際のデータを観察する場面を取り入れ、表やグラフに表す活動を通して、理想化・単純化する過程を体験することを取り入れた指導を行う必要がある。</p> <p>●「2発展的に考え、予想すること」では、示された方針にもとづいて、文字式を用いて予想された性質が成り立つことを説明する力に課題がある。説明の見通しをもつことができるようにするために、結論を導く上で何を明らかにすればよいかについて、具体的な例を通して考察する活動を取り入れた指導を行う必要がある。</p>

(2) 児童生徒質問紙調査結果

児童生徒質問紙調査の結果を下記の観点で分類し、全国との比較の中で特徴的な事柄をまとめた。

- ◇ 観点1 児童生徒質問紙の質問項目を下記のように分類した。
 - ① 学習に対する関心・意欲・態度 ② 学習習慣・学校生活
 - ③ 生活習慣 ④ 規範意識・自尊感情
 - ⑤ 家庭でのコミュニケーション ⑥ 豊かな体験・地域への参加
- ◇ 観点2 ○印：全国より割合が高い質問の中で特徴的な質問を取り上げた。
●印：全国より割合が低い質問の中で特徴的な質問を取り上げた。

	小学校6年生への調査から	中学校3年生への調査から
全体の傾向	質問項目に対する回答の傾向は、全国とほぼ同じである。	質問項目に対する回答の傾向は、全国とほぼ同じである。
①学習に対する関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語への関心等」では、「読書は好きですか」「新しく習った漢字を生活の中で使おうとしていますか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は高い。 ○「算数への関心等」では、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は高い。 ○「総合的な学習への関心等」では、全ての質問で「当てはまる」と回答した割合は高い。特に「総合的な学習の時間の勉強は好きですか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語への関心等」では、「読書は好きですか」の質問で「当てはまる」とした回答の割合は高い。 ●「国語への関心等」では、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は低い。 ○「数学への関心等」では、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は高い。 ●「数学への関心等」では、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問で「当てはまる」と回答した割合は低い。 ●「総合的な学習への関心等」では、全ての質問で「当てはまる」と回答した割合は低い。
②学習習慣・学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校が休みの日に、1日あたりどれくらい勉強しますか」の質問で、「1時間以上」と回答した割合は高い。 ●「家で宿題をしていますか」の質問で、「している」と回答した割合はほぼ同じであるが、「家で授業の予習をしていますか」「家で授業の復習をしていますか」の質問で、「している」と回答した割合は低い。 ○「テストで間違えたところを後で勉強していますか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日どれくらいの時間、勉強しますか」の質問で、全国では「2時間以上」と回答した割合が一番高いが、長野市では「1時間以上、2時間より少ない」と回答した割合が一番高い。 ○「家で宿題をしていますか」「家で授業の復習をしていますか」の質問で、「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合は高い。 ●「家で授業の予習をしていますか」の質問で、「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合は低い。 ○「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は高い。

<p>③生活習慣</p>	<p>○「朝食を毎日食べていますか」の質問で、「している」と回答した割合は高い。</p> <p>○「普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか」の質問で「午前6時30分より前」、「普段、何時ごろに寝ますか」の質問で、「午後10時より前」と回答した割合は高い。</p> <p>○「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の質問で、全国では「4時間以上」と回答した割合が一番高いが、長野市では「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合が一番高い。</p> <p>○「携帯電話で通話やメールをしていますか」の質問で、「ほぼ毎日している」と回答した割合は低く、「携帯電話は持っていない」と回答した割合は高い。</p>	<p>○「朝食を毎日食べていますか」の質問で、「している」と回答した割合は高い。</p> <p>○「普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか」の質問で「午前6時30分より前」、「普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか」の質問で、「午後11時より前」と回答した割合は高い。</p> <p>○「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」の質問で、「1時間より少ない」「全くしない」と回答した割合は高い。</p> <p>○「携帯電話で通話やメールをしていますか」の質問で、「ほぼ毎日している」と回答した割合は低く、「携帯電話は持っていない」と回答した割合は高い。</p>
<p>④規範意識・自尊感情</p>	<p>○「学校のきまりを守っていますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は高い。</p> <p>●「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は低い。</p> <p>○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は高い。</p> <p>●「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は低い。</p>	<p>○「学校のきまりを守っていますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は高い。</p> <p>●「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は低い。</p> <p>○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は高い。</p> <p>○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は高い。</p>
<p>⑤家庭でのコミュニケーション</p>	<p>○「家の人と普段（月～金曜日）、朝食、夕食を一緒に食べていますか」の質問で、「している」と回答した割合は高い。</p> <p>○「家の手伝いをしていますか」の質問で、「よくしている」と回答した割合は高い。</p>	<p>○「家の人と普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べていますか」の質問で、「している」と回答した割合は高い。</p> <p>●「家の手伝いをしていますか」の質問で、「よくしている」と回答した割合は低い。</p>
<p>⑥豊かな体験・地域への参加</p>	<p>●「体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか」の質問で、「何度もあった」「時々あった」と回答した割合は低い。</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問で、「当てはまる」と回答した割合は高い。</p>	<p>○「動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがありますか」の質問で、「何度もあった」「時々あった」と回答した割合は高い。</p> <p>●「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は低い。</p>

(3) 学校質問紙調査結果

学校質問紙調査の結果を全国と比較し、特徴的な事柄の概要を下記の観点でまとめた。

◇観点 ○印：全国より割合が高い事柄のうち特徴的な項目を取り上げた。

●印：全国より割合が低い事柄のうち特徴的な項目を取り上げた。

	小学校への調査から	中学校への調査から
特徴的な事柄	<ul style="list-style-type: none"> ○「コンピュータの配置状況」や「LANの整備状況」、「学校の教育活動の情報についてホームページを開設して情報提供を行うこと」、「インターネットやコンピュータを活用した国語・算数の授業を行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「朝読書などの一斉読書の時間を設けること」、「学校図書館を活用した授業を計画的に行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「国語の指導として、漢字や語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行うこと」や「算数の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「学校全体として特別支援教育の校内支援体制が機能していること」、「学校の教員が特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導をよく行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「教員が学校外での研修に積極的に参加できるようにすること」の割合は、全国を上回っている。 ○●「国語・算数の指導として、家庭学習の課題を与えること」の割合は、全国を上回っているが、「保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行うこと」の割合は、全国を下回っている。 ●「放課後を利用した補充的な学習サポートの実施すること」や「長期休業期間を利用した補充的な学習サポートの実施すること」の割合は、全国を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「コンピュータの配置状況やLANの整備状況」、「学校の教育活動の情報についてホームページを開設して情報提供を行うこと」、「インターネットやコンピュータを活用した国語・算数の授業を行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「朝読書などの一斉読書の時間を設けること」、「学校図書館を活用した授業を計画的に行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「国語の指導として、漢字や語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「学校の教員が特別支援教育について理解し、子どもの特性に応じた指導を行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「国語・数学の指導として、家庭学習の課題を与えること」の割合は、全国を上回っている。また、「保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行うこと」の割合は、全国を上回っている。 ○「教員が学校外での研修に積極的に参加できるようにすること」の割合は、全国を上回っている。 ●「数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行うこと」の割合は、全国を下回っている。 ●「長期休業期間を利用した補充的な学習サポートの実施すること」の割合は、全国を下回っている。